



昨日と違う
空間を生み出すために。

住江織物は
SUMINOEへ

2025年 5 月期 決算説明資料



あらゆる空間に、イノベーションを。

SUMINOE株式会社

(東証プライム：3501) | 2025年 7 月

- 01 2025年 5 月期 決算概況 P.03
- 02 2026年 5 月期 計画 P.14
- 03 中長期経営目標後半 3 ヲ年
「SUMINOE GROUP WAY STEP II（2025～2027）」進捗 P.17
- 04 資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について（アップデート） P.20

2025年 5 月期 決算概況



2025年 5 月期 決算のポイント

- ✓ **売上高**は、自動車・車両内装事業における国内の自動車受注車種の販売台数増加や鉄道・バス生産回復需要の取り込み、インテリア事業における環境性能の高いタイルカーペットの納入物件数増加などが要因となり、前期を上回りました。
- ✓ **利益面**では、自動車メーカーの生産計画変動やそれに伴う物流費の増加などの影響を受けたほか、連結子会社の為替差損やシステム障害対応費用による営業外費用を計上したことなどから、前期を下回りました。

(単位：百万円)

	2025年 5 月期	2024年 5 月期	前期比増減		2025年 5 月期	業績予想比増減	
	実績	実績	(率)	(額)	業績予想 (2025/4/11付)	(率)	(額)
売上高	※2 104,791	103,478	+1.3%	+1,313	103,700	+1.1%	+1,091
営業利益 営業利益率	3,001 2.9%	3,300 3.2%	△9.0%	△298	2,900 2.8%	+3.5%	+101
経常利益 経常利益率	2,514 2.4%	3,668 3.5%	△31.5%	△1,154	2,500 2.4%	+0.6%	+14
※1 当期純利益 当期純利益率	669 0.6%	874 0.8%	△23.4%	△204	950 0.9%	△29.5%	△280

(単位：円)

為替レート 1 \$ =	152.60	145.31
-----------------	---------------	--------

※1 当資料の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を表しています。

※2 売上高の為替影響は前期比で+610百万円

連結業績推移（売上高/営業利益）

■ 売上高（左軸）

● 営業利益（右軸）

中長期経営目標



SUMINOE GROUP WAY
2022～2024～2027

SGW STEP II（後半3ヵ年 2025～2027）

（単位：百万円）

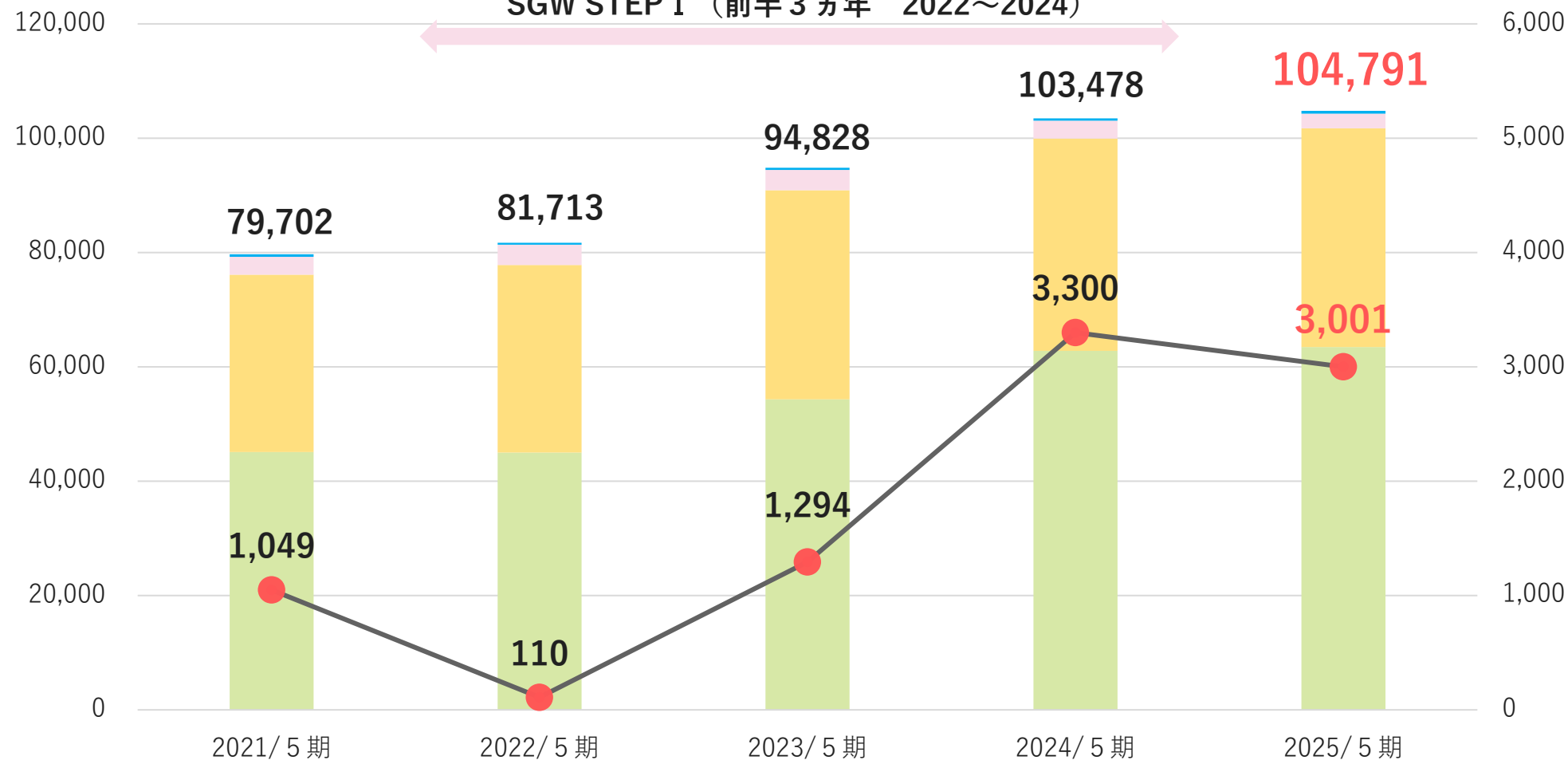
SGW STEP I（前半3ヵ年 2022～2024）

■ その他

■ 機能資材

■ インテリア

■ 自動車・
車両内装



セグメント別内訳

(単位：百万円)

売上高		2025年 5 月期	2024年 5 月期	前期比増減		売上高比率 2025年 5 月期
				(率)	(額)	
	自動車・車両内装	63,478	62,800	+1.1%	+678	60.6%
	インテリア	38,264	37,142	+3.0%	+1,122	36.5%
	機能資材	2,566	3,127	△17.9%	△561	2.4%
	その他	481	407	+18.1%	+73	0.5%
	合計	104,791	103,478	+1.3%	+1,313	100.0%

セグメント利益		2025年 5 月期	2024年 5 月期	前期比増減	
				(率)	(額)
	自動車・車両内装	4,094	4,427	△7.5%	△333
	インテリア	1,023	946	+8.1%	+76
	機能資材	△124	△66	—	△58
	その他	86	76	+14.2%	+10
	調整額	△2,077	△2,083	—	+5
	合計	3,001	3,300	△9.0%	△298

増収減益 となりました。

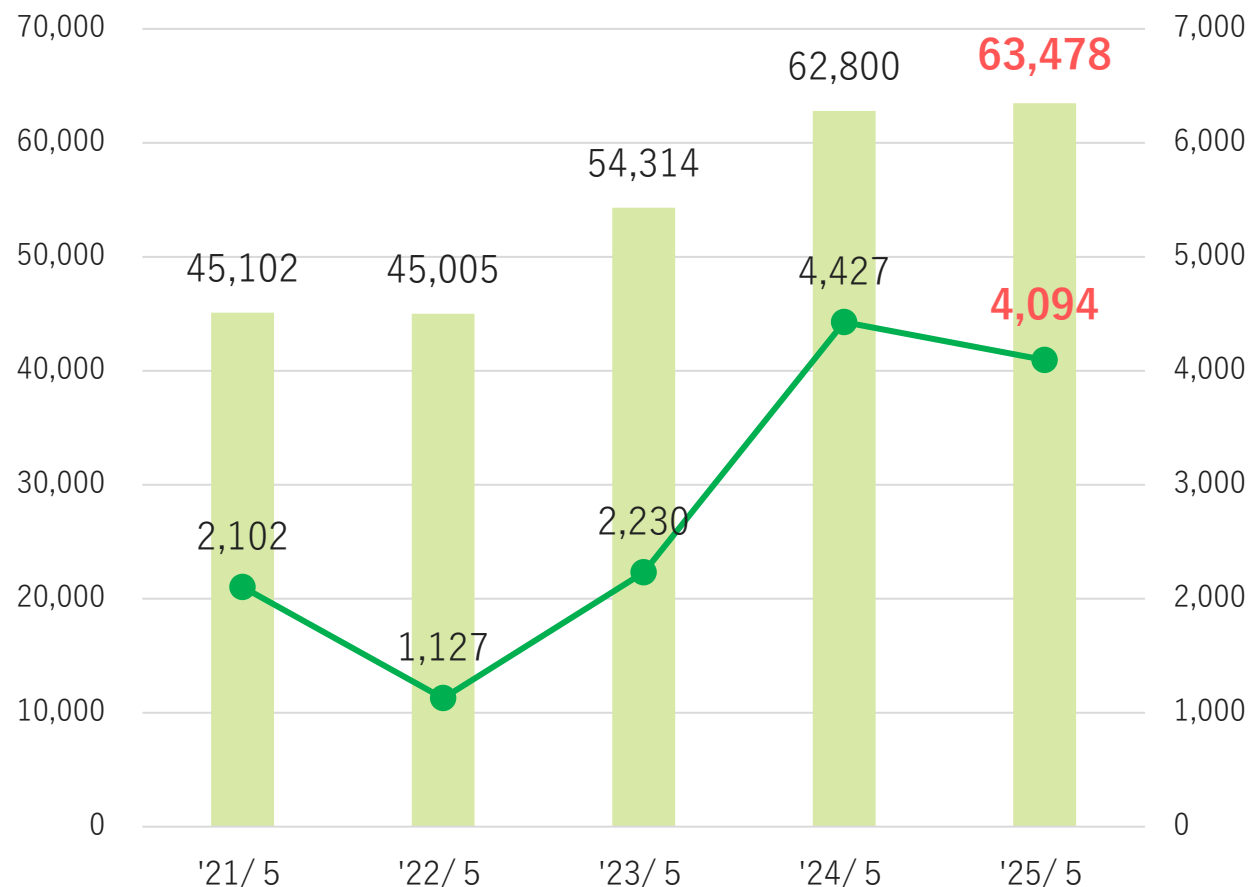
- ✓ **売上高**は、国内の自動車関連において受注車種の販売台数が伸長し、また、当社グループ間での連携により着実に鉄道やバスの生産回復需要を取り込んだことにより、前期を上回りました。
- ✓ **セグメント利益**は、海外での生産計画変動による生産効率悪化、それに伴う物流費の増加等が影響し、前期を下回りました。

(単位：百万円)

■ 売上高 (左軸)

● セグメント利益 (右軸)

事業別売上の詳細は
次のスライドでご説明します



当 社

売上高

前期比

+1.1%
(+678百万円)

セグメント利益

前期比

△7.5%
(△333百万円)

事業環境

国内自動車

生産台数

前期比

△2.0%

海外自動車

前期比

生産台数 減

自動車・車両内装事業

自動車内装 (国 内)

売上高
前期比
+2.0%

+

- 受注車種の販売台数増加
- 一部自動車メーカーの認証不正問題による生産調整の解消

自動車内装 (海 外)

売上高
前期比
△1.3%

+

-

- 前期に終えた事業再編と販促活動が奏功しカーマットの販売堅調（北中米）
- 一部車種のモデルチェンジに伴う生産調整の影響（北中米）
- 電気自動車メーカー台頭に伴う日系自動車メーカーの生産縮小・撤退の影響（中国）
- 社会情勢を背景とする日系自動車の販売不振（東南アジア）

車 両 内 装

売上高
前期比
増加

+

- 内需やインバウンド需要増加に伴う鉄道・バス向け内装材需要に、関織物株式会社との連携による製販一貫体制での的確に対応
- 鉄道各社における安全・防災対策の取り組み強化により、非常脱出はしごが多数採用

増収増益 となりました。

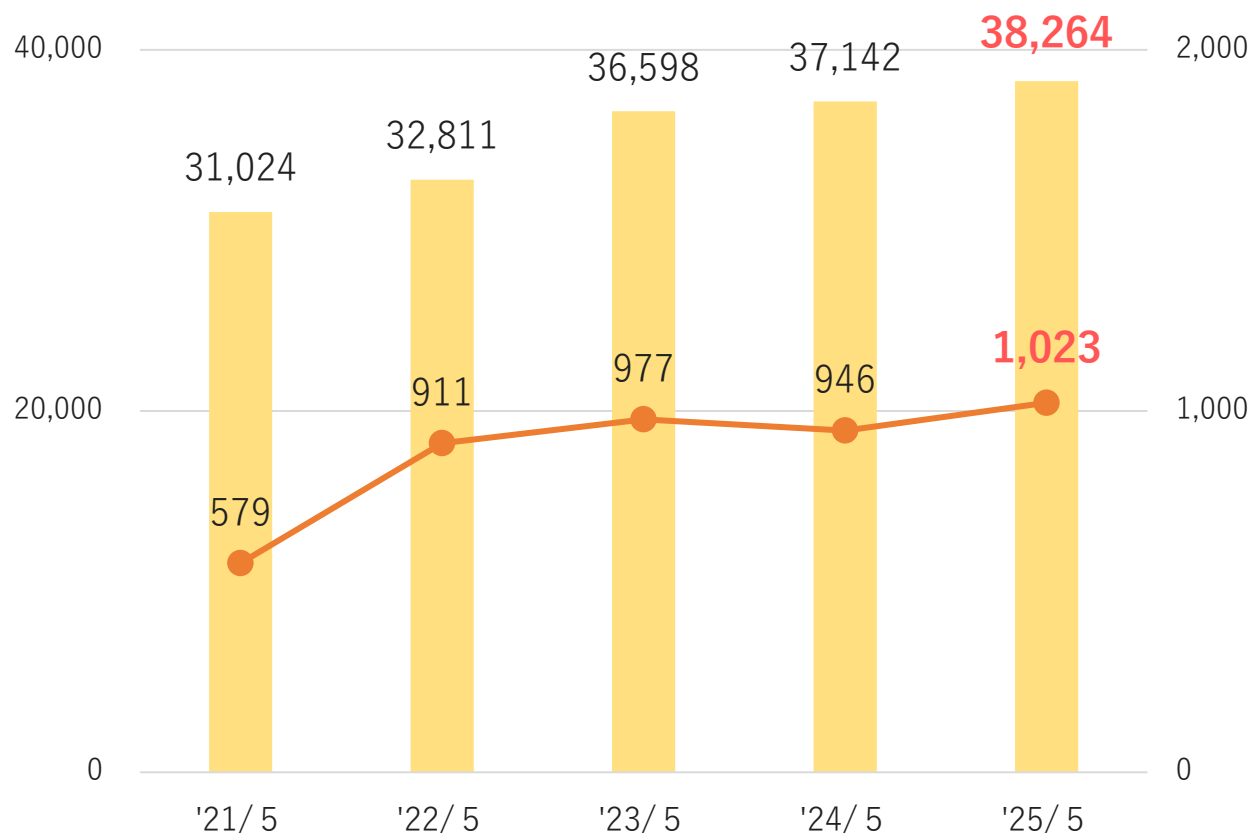
- ✓ **売上高**は、タイルカーペットの納入物件数増加やスペース デザイン ビジネスの伸長により前期を上回りました。
- ✓ **セグメント利益**は、原材料・エネルギー価格の高止まりを踏まえた機動的な価格改定などが奏功し、前期を上回りました。

(単位：百万円)

■ 売上高 (左軸)

● セグメント利益 (右軸)

品種別売上の詳細は
次のスライドでご説明します



当 社

売上高

前期比

+3.0%

(+1,122百万円)

セグメント利益

前期比

+8.1%

(+76百万円)

事業環境

新設住宅着工戸数

前期比

△4.0%

民間非住宅分野

着工面積

前期比

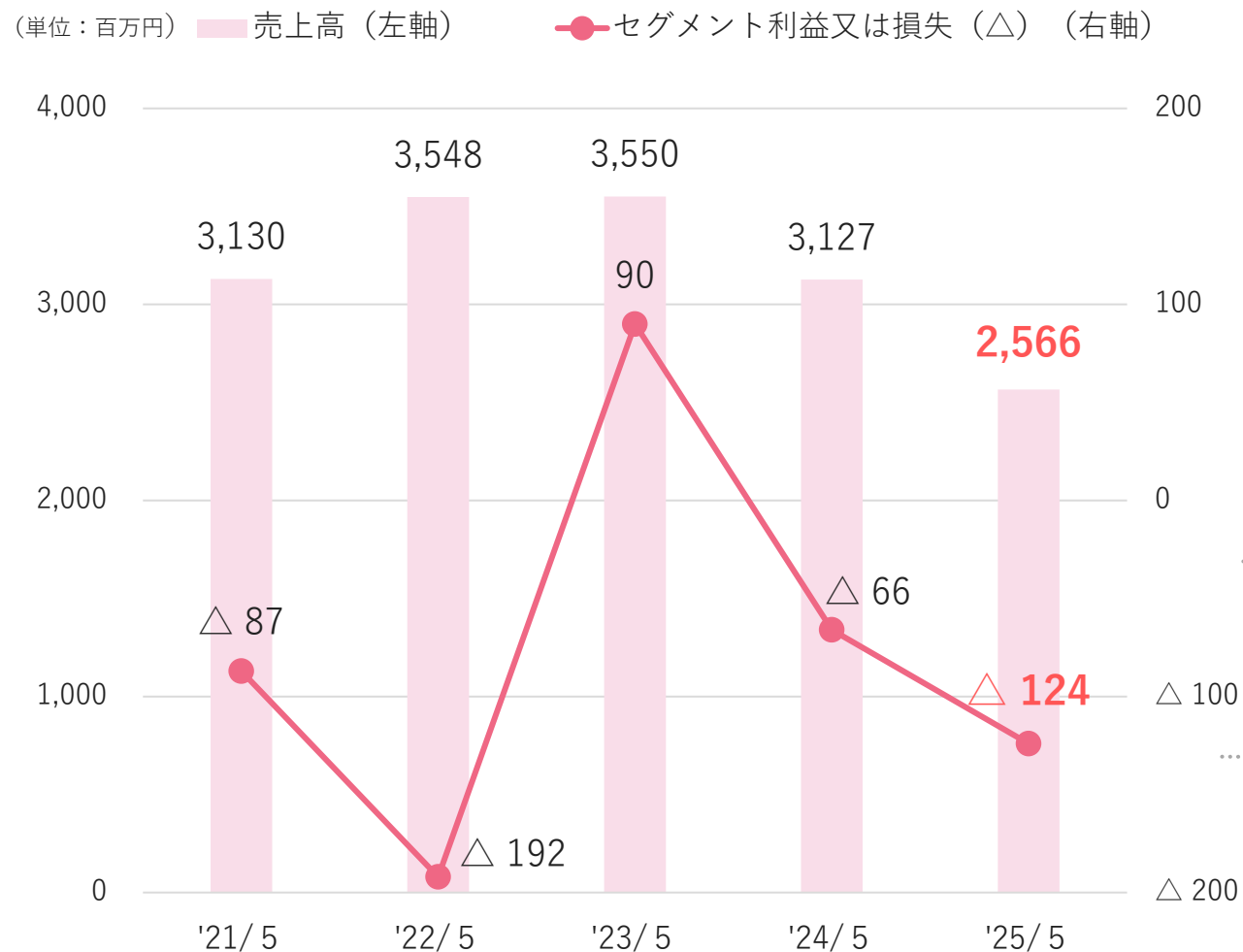
△6.0%

インテリア事業

業務用 カーペット	売上高 前期比 +4.1%	+	● 環境性能が高く、幅広いニーズに応えられる水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」が評価され、納入物件数増加
家庭用 カーペット	売上高 前期比 △6.6%	+ -	● 中高級ゾーンに対応するラグマットなどの新たな販路開拓や他社との差別化を目指す販売戦略の見直しに注力 ● 上記取り組みによる売上拡大に繋がる効果は未だ限定的
カーテン	売上高 前期比 +1.7%	+	● 2024年7月に発売した一般家庭向け「U Life（ユーライフ）カーテン Vol. 11」の販売伸長
壁装関連	売上高 前期比 +3.3%	+	● 原材料・エネルギー価格の高止まりを踏まえた壁紙の価格改定が奏功 ● 防犯対策需要によるウィンドウフィルムの販売伸長
スペーシング デザインズ	売上高 前期比 +8.0%	+	● 商業施設向けの内装やタワーマンションへのオプション販売などの受注物件数増加

減収減益 となりました。

- ✓ 消臭・フィルター関連の販売は伸長したものの、繊維系暖房商材および浴室床材の新規受注数が減少し、**売上高・セグメント利益**ともに、前期を下回りました。



当 社	売上高 前期比 △17.9% (△561百万円)	セグメント損失 前期比 —% (△58百万円)
繊維系 暖房商材	売上高 前期比 減少	● 近年の暖冬に起因する得意先の在庫調整により新規受注数が減少
消臭 フィルター	売上高 前期比 増加	● 空気清浄機向けフィルターの需要回復 ● 自動開閉式ゴミ箱向けのフィルターの底堅い販売
機能性 浴室床材	売上高 前期比 減少	● 主要得意先の生産体制変更による一部モデルの転注により出荷数が減少

連結バランスシート

(単位：百万円)

	2024年5月期	2025年5月期	前期末比増減
流動資産	50,949	54,931	+3,981
有形固定資産	30,914	31,376	+461
無形固定資産	1,510	1,605	+94
投資その他の資産	8,824	7,064	△1,759
資産 計	92,199	94,976	+2,777

うち、現金および預金

● 前期末比+543百万円の8,847百万円

うち、棚卸資産

● 前期末比+765百万円の17,097百万円
(為替差△83 実力差+848)

	2024年5月期	2025年5月期	前期末比増減
流動負債	35,479	42,606	+7,127
固定負債	19,031	15,206	△3,825
負債 計	54,511	57,813	+3,301
純資産	37,687	37,163	△524
負債・純資産 計	92,199	94,976	+2,777

うち、借入金（リース債務除く）

● 前期末比+2,834百万円の20,925百万円

うち、利益剰余金

● 前期末比+160百万円の12,358百万円

うち、自己株式

● 前期末比△266百万円の△2,976百万円

設備投資・減価償却費

設備投資の主な案件

■ 2025年 5 月期

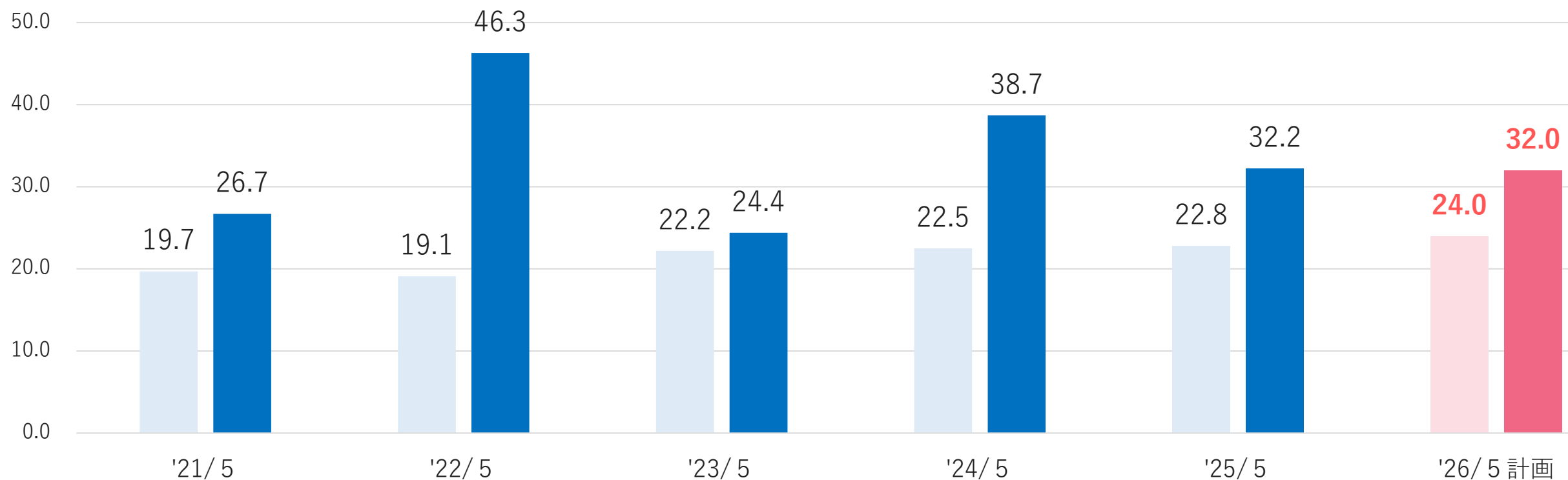
- ・メキシコ子会社 合成皮革新工場設備・装置の導入

■ 2026年 5 月期

- ・タイ子会社 合成皮革仕上げライン設備の導入
- ・メキシコ子会社 ラミネート加工設備の導入

■ 減価償却費 ■ 設備投資

(単位：億円)



2026年 5 月期 計画

2026年5月期 計画および売上高の拠点別内訳

- ✓ 現状では、米国新政権による関税引き上げ措置に伴う直接的な影響は限定的であると認識していますが、今後、事業環境の変化に伴い、業績に重要な影響を及ぼす可能性があるとは判断した場合には速やかに情報開示を行います。

(単位：百万円)

	2026年5月期	2025年5月期	前期比増減	
	計画	実績	(率)	(額)
売上高	105,000	104,791	+0.2%	+208
国内	69,400	69,507	△0.2%	△107
海外	35,600	35,283	+0.9%	+316
営業利益 営業利益率	3,100 3.0%	3,001 2.9%	+3.3%	+98
経常利益 経常利益率	3,350 3.2%	2,514 2.4%	+33.2%	+835
当期純利益 当期純利益率	1,500 1.4%	669 0.6%	+123.9%	+830

(単位：円)

為替レート 1 \$ =	144.00	152.60
-----------------	---------------	--------

2026年5月期 事業セグメント別計画

(単位：百万円)

		2026年5月期	2025年5月期	前期比増減	
		計画	実績	(率)	(額)
売上高	自動車・車両内装	63,170	63,478	△0.5%	△308
	インテリア	38,740	38,264	+1.2%	+475
	機能資材	2,620	2,566	+2.1%	+53
	その他	470	481	△2.4%	△11
	合計	105,000	104,791	+0.2%	+208
セグメント利益		2026年5月期	2025年5月期	前期比増減	
		計画	実績	(率)	(額)
	自動車・車両内装	4,300	4,094	+5.0%	+205
	インテリア	1,150	1,023	+12.4%	+126
	機能資材	20	△124	—	+144
	その他	120	86	+38.1%	+33
	調整額	△2,490	△2,077	—	△412
	合計	3,100	3,001	+3.3%	+98

自動車・車両内装

- 中国での日系自動車メーカーの生産縮小・撤退影響を受ける一方、メキシコ子会社に新設した合成皮革工場での量産や、タイ子会社にも合成皮革仕上げラインを新設するなど外資系自動車メーカーへの販促活動に引き続き注力します。また、顧客のニーズに対応する高品質な製品の安定的な供給に努めます。
- 鉄道・バス向けともに回復傾向が続く需要を取りこぼすことなく対応するとともに、鉄道各社における安全・防災対策の取り組み強化のニーズに応える提案を進めます。

インテリア

- インバウンド需要回復に伴うホテルなどの改修物件の増加への対応に努めるとともに、「ECOS® (エコス)」を中心とした環境対応型製品の拡販を図ります。

機能資材

- 繊維系暖房商材においては、近年の暖冬により新規受注数の大幅な回復は期待しがたいものの、季節性にとらわれない商材や小型生活家電の受注獲得および販路拡大に注力します。

中長期経営目標後半3ヵ年

「SUMINOE GROUP WAY STEPⅡ（2025～2027）」
進捗



SGW STEP II の重点テーマ

5つの重点テーマを追求するとともに、
実力の底上げを確実に進めていくことで、
2027年5月期までに目標の収益率を目指します。

収益性の
向上



目指す収益率

営業利益率

5.0%

ROE

8.0%

※ 資本コストを上回るROE

グローバル
展開の
さらなる強化

PBR

1.0倍

※ 企業価値の向上

非繊維領域
の強化



経営基盤
の強化



ブラン
ディング



SGW STEP II の連結収支計画・実績

SGW SUMINOE GROUP WAY
2022～2024～2027

※ 策定時計画：2024年7月12日付
期初計画：2025年7月11日付
(単位：百万円)

	2024年 5 月期
	実績
売上高	103,478
営業利益 営業利益率	3,300 3.2%
経常利益	3,668
当期純利益	874

2025年 5 月期		2026年 5 月期		2027年 5 月期	STEP I と STEP II の 最終年の比較	
※策定時 計画	実績	※策定時 計画	※期初計画	※策定時 計画	(率)	(額)
105,300	104,791	106,000	105,000	109,000	+5.3%	+5,521
3,300 3.1%	3,001 2.9%	4,200 4.0%	3,100 3.0%	5,000 4.6%	+51.5%	+1,699
3,400	2,514	4,200	3,350	5,000	+36.3%	+1,331
1,500	669	2,100	1,500	2,600	+197.3%	+1,725

売上高の拠点別内訳

売上高	103,478
国内	67,793
北中米	18,469
中国	8,098
アジア	9,116

105,300	104,791	106,000	105,000	109,000	+5.3%	+5,521
68,900	69,507	71,100	69,400	73,000	+7.7%	+5,207
18,700	19,060	17,300	19,900	18,700	+1.2%	+230
8,000	7,285	7,800	6,300	7,900	△2.5%	△198
9,700	8,937	9,800	9,400	9,400	+3.1%	+282

(単位：円)

為替レート 1 \$ =	145.31
-----------------	--------

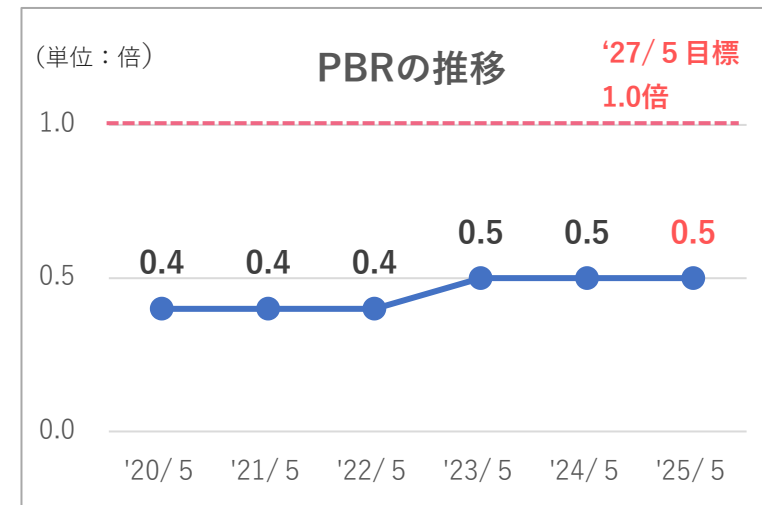
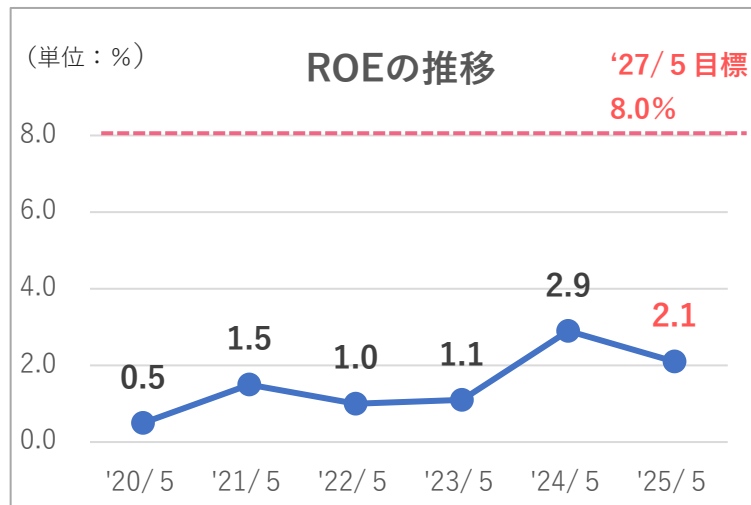
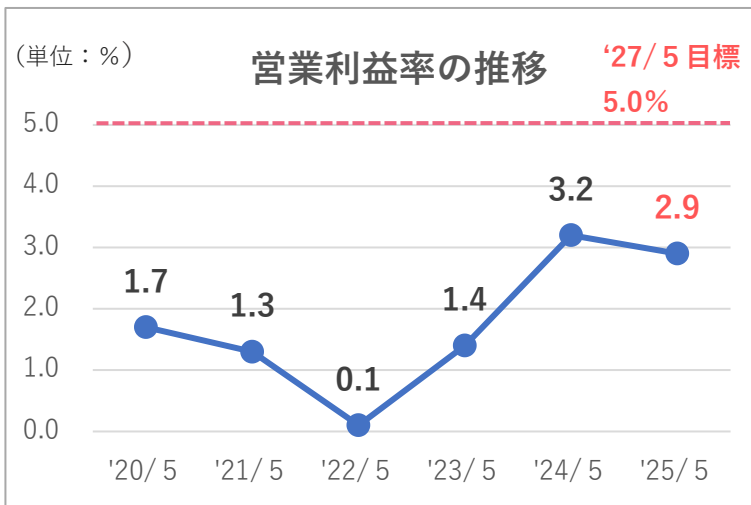
144.00	152.60	131.00	144.00	125.00
--------	--------	--------	--------	--------

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について (アップデート)

現状分析・改善に向けた方針

現状分析

- 株主資本コスト約5～7%を上回るROEを目指しているものの、2025年5月期は当初計画未達によりROE2.1%に留まりました。
- 自動車内装事業を取り巻く市場環境が不確実性を増している状況下で、本業における利益率の改善が最重要課題であると認識しています。
- 資本コストの抑制を図ることも必要であると認識しています。



改善に向けた方針

- 米国新政権の関税政策などによる不透明感が高まっていますが、外資系自動車メーカーへの販促活動が実を結ぶ兆しが見え始めているほか、機能資材事業の黒字化計画などから最終年度である2027年5月期の計画および目指す収益率は据え置いています。
- SGW STEP II 5つの重点テーマを追求するとともに、①**中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」の達成**、②**株主還元の強化**および③**IR活動の充実**を推進することで、目標の収益率の達成と資本コストの抑制を図ります。

具体的な取り組み① 中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」の達成

● 自動車内装 ● 車両内装 ● インテリア ● 機能資材 ● 全社

■収益性の向上

- メキシコ子会社に新設した合成皮革工場における顧客ニーズに対応する高品質な製品の安定的な供給
- 独自の加飾技術による差別化
- 鉄道各社における安全・防災対策取り組み強化に適う非常脱出はしごなどの提案と対応
- 中高級ゾーンに対応する付加価値型製品群のラインナップ拡充とシリーズ化による顧客への訴求力向上
- 環境対応について訴求力のある水平循環型リサイクルカーペット「ECOS®（エコス）」のシェアアップ
- プロダクトポートフォリオの見直しによる高付加価値分野への注力
- 夏物家電商材の開発および拡販
- 部門を越えた連携によるシナジー効果の最大化
- 適切な利益確保および持続可能なサプライチェーン構築のための価格転嫁活動の実施
- 設備投資および生産体制の再構築・効率化による生産性の向上

■グローバル展開のさらなる強化

- 国内外拠点の連携を強化し、海外での展示会出展やプレゼンテーションなどによる外資系自動車メーカーへの販路拡大
- ベトナム拠点の生産体制再編によるコスト競争力の強化および世界供給体制の最適化
- グローバルでのインテリア製品拡販に向けた体制構築
- グローバル人材の採用と育成
- キャリア申告制度の活用

■非繊維領域の強化

- メキシコ子会社に新設した合成皮革工場を活用した新規素材の開発
- 鮮度保持などの新機能追加で、フィルター商品群を拡充
- 合成皮革やスペース デザイン ビジネスなど、新たな付加価値のある製品・サービスの開発・拡販による他社との差別化

■経営基盤の強化

- 当社グループの成長を支える人材の育成・確保
- 政策保有株式の縮減
- 基幹システムの再構築

■ブランディング

- ブランド戦略室を中心としたSUMINOEブランド価値の競争力強化
- 部門を越えた交流によるグループ内協力体制の強化
- コーポレートブランドの広告出稿
- インナーブランディング推進によるグループ理念・経営方針の浸透
- 業務ツールなどを通じた企業ロゴの露出強化

太字箇所の詳細は
次のスライドからご説明します

SGW STEPⅡから新しい快適のスタンダードを創るための取り組み_01

収益性の向上

中高級ゾーンに対応する付加価値型製品群のラインナップ拡充とシリーズ化による顧客への訴求力向上
環境対応について訴求力のある水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」のシェアアップ

- オーダーラグシリーズ「Epilogue（エピローグ）」
2025年6月発売
- オーダーラグコレクション「itten（イッテン）」の拡販



Epilogue（エピローグ）



itten（イッテン）

- 水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」ハイグレードシリーズ「iD（アイディー）」新バリエーション2025年6月発売



iD（アイディー）新バリエーション



！ 新製品開発については、当社グループの強みを活かして他社との差別化を図り、新市場への提案を加速させることで収益性を高めます。

SGW STEPⅡから新しい快適のスタンダードを創るための取り組み_02

収益性の向上

非繊維領域の強化

▶▶▶ 設備投資および生産体制の再構築・効率化による生産性の向上
合成皮革やスペース デザイン ビジネスなど、新たな付加価値のある製品・サービスの開発・拡販による他社との差別化

■ タイ子会社 T.C.H. Suminoe Co., Ltd. における 設備投資

概要

- 投資内容 設備（自動車内装材向け合成皮革仕上げライン）の新設
- 設置場所 タイ国アユタヤ県バンパイン工業団地内
- 投資金額 約 1.6 億円（予定）※1THB=4.4円で換算

今後の予定

- 2025 年 6 月～2026 年 1 月 設備製作・設置
- 2026 年 2 月 設備設置完了
- 2026 年 4 月 試運転開始



タイ子会社 T.C.H. Suminoe Co., Ltd.

! 合成皮革製造の自社工場であるメキシコ子会社や合成皮革を扱う日本・中国などグローバル拠点の力を集結し、市場の拡大や中国市場における地政学リスクの高まりなどに対応することで、合成皮革の受注拡大と収益確保を推進していきます。

SGW STEPⅡから新しい快適のスタンダードを創るための取り組み_03

グローバル展開のさらなる強化

国内外拠点の連携を強化し、海外での展示会出展やプレゼンテーションなどによる外資系自動車メーカーへの販路拡大

■ TESCA groupのフランスとスペインの拠点を訪問し、対面でミーティングを実施



TESCA groupとの合同ミーティング

当社グループの拠点が無い欧州や南米、TESCA groupの製造拠点が無いアジアでの自動車用ファブリックの開発・生産・販売を相互に支援し合うことを目的とし、2022年にフランスに拠点を置くTESCA groupと自動車用ファブリックに関する業務提携を締結しました。

今後もディスカッションや工場見学を通して、両社の持つ素材や設備、顧客への提案方法などの理解を深めます。

■ 外資系自動車メーカーへの受注活動を強化



海外でのプレゼンテーション

将来の受注に向けてSUMINOE GROUPの強みをPRするため、サステナブルな新素材および新技術の紹介や、自動車内の空間全体をコーディネートし、提案するプレゼンテーションを実施しました。特に新興自動車メーカーに対して、まずは、求めている素材を持っている、どんな要望にも応えられる内装材メーカーであると認知されるとともに、海外市場でのプレゼンスを高めていきます。



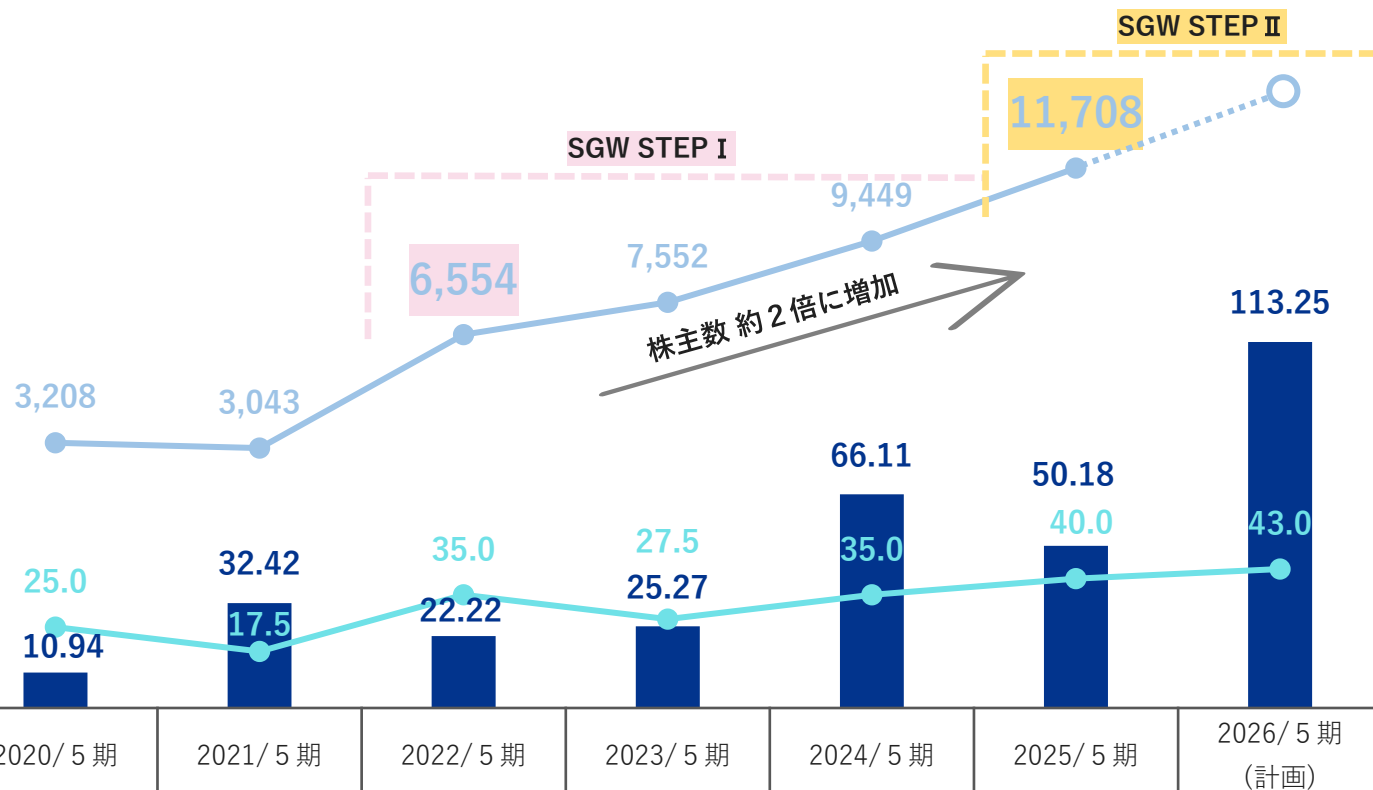
自由に組み合わせ確認が可能なサンプルボックス

これまで日系自動車メーカーからの受注が中心であった当社グループは、これから目指す未来に向けて外資系自動車メーカーからの認知度を高めるため、自動車内装事業の強みを活かした高品質で快適な車室空間を提案する活動を進めています。

具体的な取り組み② 配当方針

利益還元

株主のみなさまへの利益還元を重要な経営課題と考えています。安定的な配当と業績の動向を勘案しながら、適正な成果の配分を継続していきます。また、当社は2025年3月1日を効力発生日とする株式分割（分割比率1対2）を行っています。



株主還元方針

安定した株主還元

- 01 配当時期については、中間および期末の年2回を基本とします。
- 02 急激な環境悪化など不測の事態を除き、下限35円を維持します。

継続的な還元拡充

- 03 配当性向33%から38%に引き上げます。2027/5期は年間配当金70円を目指します。
- 04 自社製品を含む株主優待制度を引き続き実施します。
※ 株式分割に伴い、2025年度より贈呈基準株式数および贈呈内容を変更（拡充）しました。

※ 当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、1株当たり当期純利益および1株当たり配当金は当該株式分割調整後の数値を記載しています。

具体的な取り組み③ IR活動の充実

積極的なIR活動

当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るとともに市場理解の醸成に向けて、株主および投資家のみなさまとの建設的な対話に積極的に取り組んでいます。



建設的な対話の実施

- ・ 代表取締役社長による中間期・期末決算説明会の開催
- ・ 代表取締役社長による個人投資家向け会社説明会・IRセミナーへの参加
- ・ IR担当役員による機関投資家との個別面談の実施



情報開示の拡充およびタイムリーな情報発信

- ・ 積極的な適時開示書類のリリース
- ・ 中立な立場での情報提供を行うスポンサードレポート
- ・ 機関投資家向けに開催する決算説明会の書き起こしサービス



ブランディング向上施策による「SUMINOE」認知度向上

- ・ コーポレートブランドの広告出稿
- ・ 新製品情報ブランドサイトの公開
- ・ 自社サイトや公式SNSによる発信
- ・ ブランド戦略室の設置



自社サイトのご案内

- ・ [SUMINOE\(株\) ホームページ](#)
- ・ [SUMINOE GROUP 統合報告書](#)
- ・ [SUMINOE\(株\) 公式X](#)



ご清聴ありがとうございました。

当資料の将来見通しに関するリスク情報

当資料における当社グループの今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。